

各種「警報」発令及び災害発生時における児童安全確保

本校では、緊急事態を想定して、児童の登下校の際に伴う段階に応じた連絡や動きがとれるように整理しております。

災害などによる緊急事態が発生した場合には、地区委員を中心として、各家庭において、次の通り、段階に応じた動きができるようお願いしたいと思います。

◆登校に関して

災害等発生等に伴い、学校では、児童の登校に関しては以下のような対応を致します。

午前7時の段階で、**横浜市内（神奈川県全域・神奈川県東部）**に

「**暴風警報**」、「**大雪警報**」、「**暴風雪警報**」、「**特別警報**」

「**火山噴火降灰予報**」のいずれかが発令、継続中の場合

→学校は**全日臨時休校**になります。

・お子さんは、登校させないでください。

上記警報は発令されていない場合は、学校は休校となりませんが、災害等緊急事態発生によって、ご家庭で「登校は危険」と判断された時は、お子さまの登校を見合わせてください。（その後、ご家庭で「登校が可能」と判断された場合は、お子さまを安全に登校させてください。）

なお、**登校後に横浜市内（神奈川県全域・神奈川県東部）に「暴風警報」、「大雪警報」、「暴風雪警報」、「特別警報」、「火山噴火降灰予報」のいずれかが発令された場合には、帰宅時刻の繰り上げ等の措置を行います。**詳しくは、登校後に関する欄をご覧ください。

※警報等は、ご家庭で「**テレビ**」、「**ラジオ**」、「**横浜市ホームページ**」にてご確認ください。

「**地震注意情報**」、「**地震予知情報**」、「**地震警戒宣言**」のいずれかが発令された場合

→学校は**全日臨時休校**になります。

・お子さんは、登校させないでください。

また、市内で震度5強以上の地震が一カ所でも発生した場合、原則として当日及び翌日は休校になります。ただし、被害が少ない状況によっては、学校長の判断で休校とならない場合があります。休校・学校再開の情報伝達はメール等にてお知らせいたします。

なお、**登校後に、「地震注意情報」、「地震予知情報」、「地震警戒宣言」のいずれかが発令された場合、また、市内で、震度5強以上の地震が一カ所でも発生した場合には、授業を打ち切り、学校留め置き（保護者引き渡し）の措置を行います。**

※メール配信システムを通して、全家庭へ連絡いたします。

◆登校後に関して

児童の登校後の不測の事態に備え、本校では独自に警戒段階を想定し、児童の安全な下校について、段階に応じた連絡や動きがとれるようにしております。

警戒段階	児童の動き	学校からの連絡	ご家庭での対応
A 小火（ぼや）等の発生など	一時避難 （校庭・戸部公園） した後、 <u>平常授業へ戻る。</u>	『メール配信システム』 を通して、全家庭へ連絡。	○ <u>ふだんどおり</u> 、 お子さんの帰宅をお待ち ください。
B 校舎火災発生など	一時避難 （校庭・戸部公園） した後、 <u>個別に下校。</u>	『メール配信システム』 を通して、全家庭へ連絡。	○ <u>早めの下校</u> になります ので、お子さんをご自宅 で迎えらるるようにして ください。
C 下校途中や帰宅後の危険が予想される場合など	<u>学校 留め置き</u>	<u>学校留め置き実施</u> を 『メール配信システム』 を通して、全家庭へ連絡。	○ <u>お子さんのお迎え</u> を 学校までお願いします。

※「C・学校留め置き」の際、保護者に連絡が取れない場合には、保護者もしくはその代わりの方（引き取り者名簿に記載されている方）が迎えに来るまで、当面学校でお子さんを預かります。

◆登下校中の地震等について（横浜市学校防災計画より）

<登校・下校時の行動>

- 登校途中で地震が発生した場合は、近くの公園、空き地など安全な場所に避難する。揺れがおさまったら、通学路の安全を確認し、学校か自宅か近いほうに避難する。
- 下校途中で地震が発生した場合は、近くの公園、空き地など安全な場所に避難する。揺れがおさまったら、通学路の安全を確認し、学校か自宅か近いほうに避難する。
- 下校途中で津波が発生した場合は、学校の最上階よりも高い場所に避難する。揺れがおさまったら、通学路の安全を確認し、学校か自宅か近いほうに避難する。
- 交通機関を利用している児童は、交通関係者の指示に従い、決して自分勝手な行動をしない。

<地震発生時の安全な行動>

- 建物外壁や窓ガラスの落下、建物の倒壊、看板等の落下物がある場合、カバンなどを頭へのせ、すばやくその場から離れる。
- ブロック塀や石垣など倒壊の危険のある場所からは、すばやく離れる。
- 海岸にいる場合は津波のおそれがあるため、高台などの安全な場所に迅速に避難する。
- 山間部にいる場合は山崩れやがけ崩れのおそれが起こる可能性があるため、迅速に安全な場所に避難する。
- 崖下、川岸、河川敷などは、地割れ、地滑り、液状化現象が起きやすいので、すぐに離れる。
- バス、電車等に乗車している場合は、運転手、車掌、駅員などの指示に従う。
- 建物が立て込んで狭い道路を通っている時は、できるだけ速く広い場所に避難する。
- 古い建物など危険と思われる場所に近づかない。
- 倒れた電柱、たれさがった電線に近づかない。
- 橋の上は危険なので、すぐ離れる。